

実施主体、事業名などの概要

- 事業名：～100年後も続く観光と自治～リジエナラティブツーリズム創出事業
- 実施主体：一般社団法人E'more秋名
- 対象地域：奄美大島秋名地区（鹿児島県龍郷町）
- 対象とする良好な環境：自然共生サイト「奄美大島真米（まぐむ）の里 秋名・幾里・大勝」

地域の現状・課題

- 世界自然遺産及び国立公園のある生物多様性豊かな自然と、その自然と調和した暮らしぶりが残る文化色豊かな地域
- 人口減少や生活様式の変化により、奄美らしい暮らしぶりや文化の礎となっていた稻作と田園風景が消えつつある

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- 観光客が来れば来るほど暮らしも自然も豊かになる“100年後も続く、観光と自治”の実現による文化と流域の再生
- 実現に向けた観光客等への自然・文化体験と交流による、暮らしぶり・課題の共有、共感者創出（関係人口化）

実施項目（事業内での取組）

- リジエナラティブツーリズムの訴求素材作成
- 受入設備／環境／体制の整備
- コンテンツの造成
- モニタープログラムの実施

R8：コンテンツ造成、プロモーション

R7：戦略検討

実施項目（事業内での取組）

- 地域向けワークショップ開催（2回）
- 地域向けフィールドワーク実施（2回）
- ストーリーとブランディングの戦略検討
- 次年度プラン策定と体制構築

R9：ツーリズム実装 (事業期間終了後)

実施項目（自走化）

- 販路形成
- リジエナラティブツーリズム実装（国内外）
- 自然共生サイトの拡大、保全
- 共創／交流拠点の整備

対象となる良好な環境の概要



- かつての奄美北部有数の要衝地。大島紬「秋名バラ柄」発祥地として紬の生産も盛んに行われ、経済・文化両面で隆盛を極めた。
- 五穀豊穣を祈る国指定重要無形民俗文化財「秋名のアラセツ行事」が450年以上継承され、伝統と文化色豊かな地域。
- 奄美群島国立公園地域に含まれ、奄美群島最大級の田園を有し、消えつつある奄美らしい景観と奄美文化の根幹となる稻作が残る地域。
- 稻作が行われる水田が自然共生サイトに登録され、アラセツ行事等への稻藁の提供や、自然栽培・生態調査による保全も行われている。

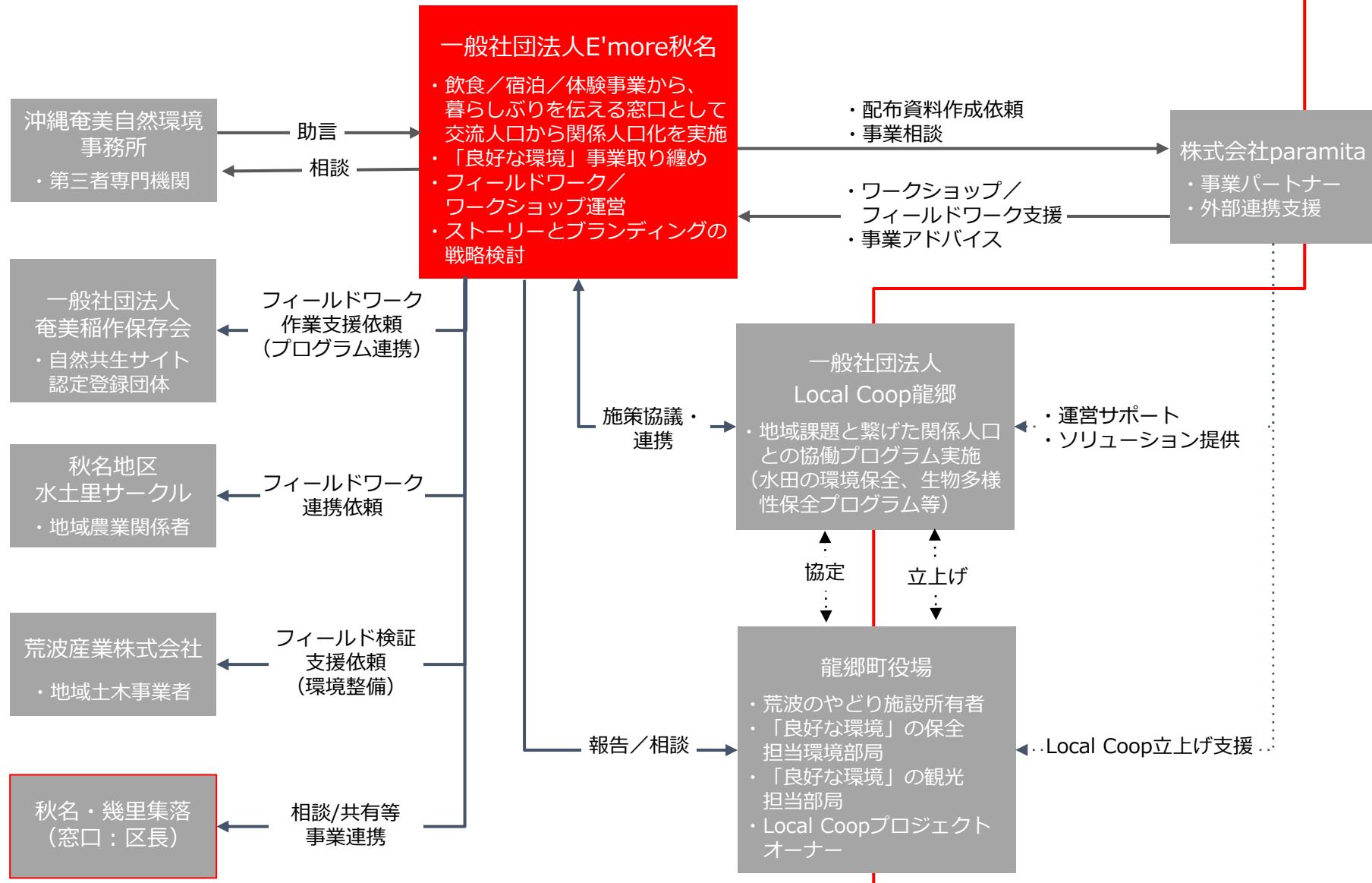
良好な環境に係るストーリー

- 固有種や絶滅危惧種が数多く生息し、生物多様性の豊かさが評価された世界自然遺産の島。
- その自然と調和した暮らしによって育まれてきた伝統・文化・精神性の根幹にあるのが稻作。
- 秋名の水田は、屋久島～与論島の南北約460kmで数少ない湿地帯であり、サシバ（絶滅危惧種）など渡り鳥の希少な餌場。多様な生き物が生息する場所として、生物多様性保全の観点においても重要な地。
- 人口減少や生活様式の変容によって、失われつつある田園風景。訪れる人々に魅力と課題を共有しながら、地域住民との交流を通して共に保全に取り組み、奄美らしい伝統・文化及び流域を再生し、継承する。



実施体制（図示）

ーR7年度リジェネラティブツーリズムに向けた「良好な環境」磨き上げのための調査・検討事業ー



【R7年度取組】

地域向けワークショップ①

- 良好な環境を生かしたプログラム組成に向け、受け入れる地域側の生物多様性と環境価値の理解を深める機会として、【第1回】住民参加型ワークショップ開催

地域向けフィールドワーク①

- 自然共生サイトでの生物調査のプログラム化検証の機会として、【第1回】住民参加型フィールドワークを開催。地域住民の地域資源の理解と共に、参加者目線のプログラムの課題と可能性をヒアリング

ストーリーとプランディングの戦略検討

- インバウンド市場調査
- インバウンド含むストーリーとプランディング戦略と施策計画の検討、策定。潜在的ニーズ層へのリーチ方法、インバウンドに対応した宿泊事業の再構築計画を検討。

地域向けワークショップ②&フィールドワーク②

- ありたい地域の可視化に向けた【第2回】ワークショップ開催／ビジョンマップ作成
- 良好な環境づくり協働プログラム検証として【第2回】フィールドワーク開催（島内在住外国籍住民含む）

特に工夫した点・取組成果

- 専門家により講演（座学）に加え、身近なフィールドを観察しながら、質疑を交わし地域住民の理解を深めた
- 地域内外29名が参加し、地域区長や農業関係者など地域キーマンへの共有と機運醸成

特に工夫した点・取組成果

- 地域農業団体へ協力要請を行い、地域関係者との協働により、解像度が高まり、地域との連携/協力度が向上
- 地元参加者から地域資源の魅力と面白さを体感できたというアンケート結果を確認

今後のスケジュール

- 生成AIを活用し、奄美群島におけるインバウンド市場の現状と課題を調査（8～9月）
- ターゲットエリア調査（10月）
- リーチ方法、高付加価値化、体制の計画化（9月～2月）

今後のスケジュール

- 航空写真で地域住民の残したい場所と暮らしをヒアリング、マッピング（11月）
- ヒアリング結果の共有物（配布資料）制作（12月～2月）
- 水田で良好な環境作りフィールドワーク開催（12月）

R7年度のゴール

- 地域住民が地域資源（良好な環境）の価値と、リジエネラティブツーリズムの可能性を体感
- ストーリーとプランディング戦略、次年度実施施策・体制、モニタープログラムの計画策定

課題

- 地域住民とのビジョンの共有を通した、地域運営と両立した持続可能な連携体制の構築
- 地域住民と事業関係者（地域外居住者、Iターン等移住者）の信頼・協働関係の構築
- 継続的なインバウンド誘客の流れ作り

【補足1】フィールドワーク（生態調査）

■目的

- 自然共生サイトにおける保全活動の、観光コンテンツとしての可能性を検証
- 地域住民と農業関係者が資源を知り、地域外参加者と共に観光として行う保全活動を体験。リジェネラティブツーリズムのプログラムイメージを共有

■成果

- 秋名地区住民が20名参加(うち、農家17名)

- 地域外から8名のファミリーが一般参加

- 1時間の調査(体験)で33種の生物を同定

- アンケート結果(N数=8)

 <定量>満足度100%、再参加希望100%

 <定性>

- ・今まで見られない生き物が観察できて感動した
- ・専門家が詳細に解説してくれて、とても勉強になった
- ・地域の学校でもプログラムとしてぜひ導入して欲しい
- 地域農家が、参加者の反応や、農作業とは違う視点から、圃場の資源と環境を知る機会となった

(昔と今の環境の変化、これだけ多様な生物が生息していること)



【補足2】ワークショップ（講演&対話）

■目的

- 地域との連携に向けて地域住民を対象に、リジェネラティブツーリズムの重要な視点となる「生物多様性」の理解を深めるために、生物多様性とは何か、なぜ保全と再生が重要なのかを地域の環境で具体的に確認しながら共有
- 「生物多様性」の保全と再生をツーリズムを通して実施することに対する地域の理解と機運づくり



■成果

- 地域内外から29名参加（秋名地区20名）
- 全ての参加者から好評を頂き、次回開催や地域に理解を広めていく期待の声があった
- 本ワークショップ開催後、参加者の口から「生物多様性」というキーワードが出てくるようになった。
- 流域再生をテーマに、島外26名参加の別イベント（本事業外）を開催した際、地域からも地域住民数名も同席。本事業で取り組まれた地域理解や機運によって、同イベントで行われた地域と島外参加者の対話が充実し、秋名で取り組まれるリジェネラティブツーリズムの解像度を双方共に高めることにも繋がった。



【補足3】インバウンド調査からのストーリーとブランディングの考察状況

■ 基本的な考え方

秋名の自然・文化・暮らしを「消費」ではなく、「地域と関係が生まれる滞在」をコンテンツ設計の基本とし、宿泊・音声ガイド・セルフ型体験を組み合わせ、過疎地でも持続可能な宿泊プログラムを提供。

滞在者には、土地の背景や営みを「知る → 感じる → 関わる」プロセスを共有し、旅が“思い出”ではなく“関わりの入口”となることを目指す。

■ コンセプト(滞在価値)

You don't come here to be served.

You come to remember how to be with a place.

(ここは「サービスを受けに来る場所」ではなく、島と自分のリズムを重ねに来る場所である。)

■ 滞在イメージ

Day1 | 島に「入る日」

- ・スマートチェックイン
- ・ウェルカムドリンク(ミキ or くびき茶+黒糖)
- ・On the Trip で、過ごし方を誘う音声ガイド
- ・セルフ島おかず夕食セット(鶏飯・地魚の刺身・ふくらかん)

Day2 | 島と「関わる日」

- ・ミニマル朝食ボックス(島のおかずとおにぎり等)
- ・集落散策(音声ガイドで人と暮らしに出会う旅)
- ・昼食は、あらば食堂で島料理を堪能
- ・調理体験プログラム「島のおやつとお話の時間」
- ・島食材のBBQ(ケータリング)
- ・夜はOnTheTripと島の音(波・虫・鳥など)でチル体験

Day3 | 島を「持ち帰る日」

- ・「今日の〇〇の色カード」記入
- ・旅の記憶を言葉ではなく感覚ベースで定着させる

■ ターゲット

第1優先:オーストラリア

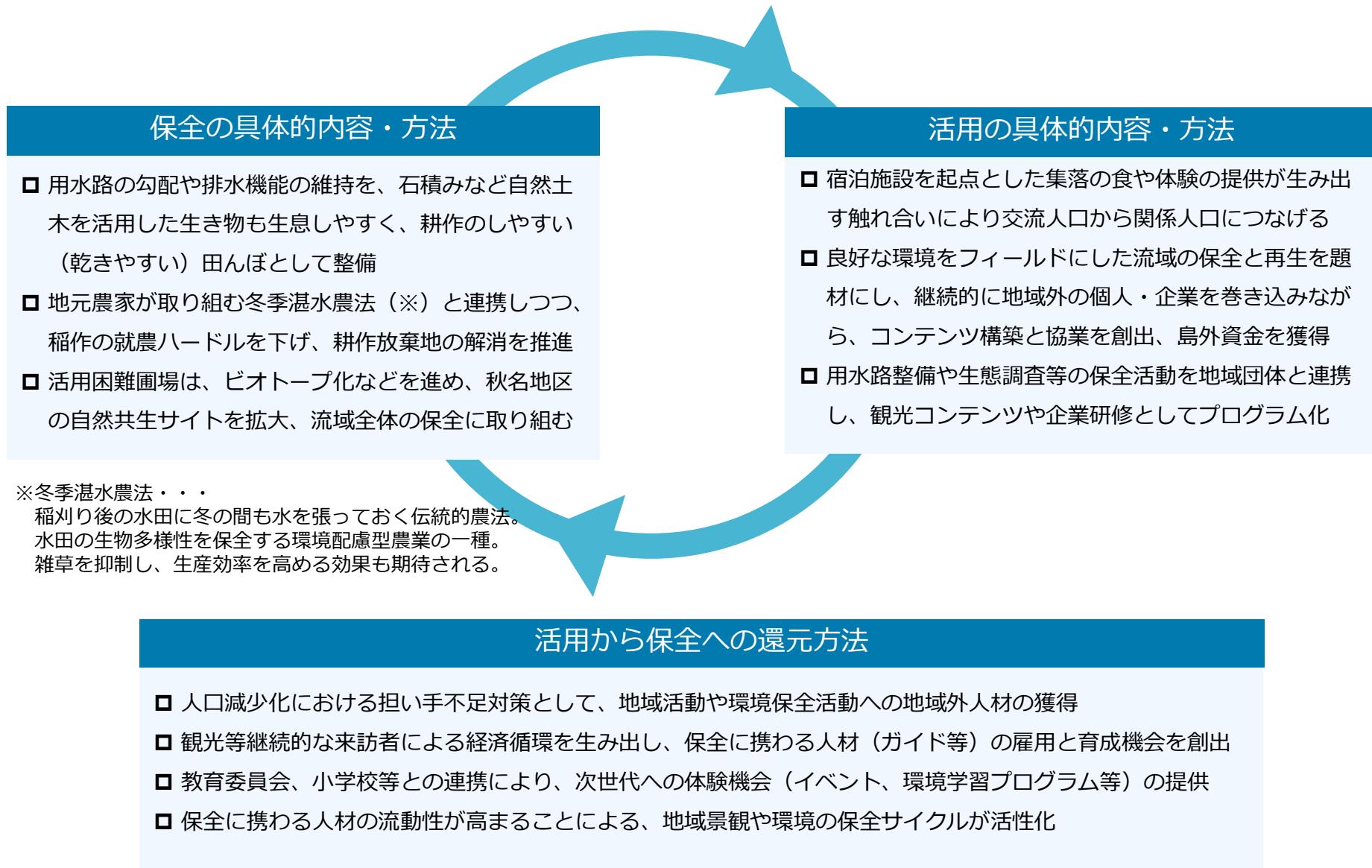
- ・自然 × 季節 × 島の静けさに価値を見出す層
- ・ホエールシーズン(日本の12~3月)と相性が良い

第2優先:北米(米国・カナダ)

“Overtourism-free Japan” / Indigenous & cultural narrativeへの共感層

“意味のある旅”を求める長期滞在志向
→ どちらも「観光」ではなく「関係」を求める層

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み



【R8年度取組】

訴求素材作成

- 「良好な環境」に係るストーリーを国内外へ発信するプロモーション映像を制作（完成：1月ごろ）

コンテンツ造成

- 宿泊事業と「良好な環境」の連携、動線を見据え、地域資源の価値とストーリーを織り込んだオーディオガイドアプリ（on the trip）を多言語対応で構築。（完成：11月ごろ）

受入環境/設備/体制整備

- 宿泊事業のインバウンド対応体制強化（掲示物、パンフレット、ホームページ等の多言語化）（完成：1月ごろ）

モニタープログラム実施

- 企業及び個人（国内外）向けモニタープログラム（1～2回）を開催。実施を通して検証及びプロモーションを実施。（モニター実施：9月～11月）

想定する成果

- 秋名地区の景観や暮らしぶり、ストーリー性を言語だけのみならず、視覚的に訴求し、滞在イメージを高める
- SNS、YouTube等で奄美大島、秋名という地域の環境、文化的魅力と認知度を広げる

想定する成果

- 宿泊施設への滞在から音声ガイドを活用し、地域資源に触れたり、交流を促すなど、滞在中の過ごし方を誘導することで、ストーリーを体感し、良好な環境への理解と共感性、体験付加価値を高める

想定する成果

- インバウンド観光客の宿泊施設での快適性を担保
- 環境や文化に関心のあるインバウンド層へのネット上での訴求力向上

想定する成果

- インバウンドツアーやへの対応体制強化、改善材料の獲得
- モニター参加者を通した体験価値の訴求

R8年度のゴール

- インバウンドにも対応したリジェネラティブツーリズムの受け入れ態勢構築
- モニタープログラム等を通したインバウンド誘客の発信

想定される課題

- インバウンド観光客へのプログラム提供にあたっての運用体制確立（雇用、委託先の獲得）
- 緊急時を想定したインバウンド観光客への対応力強化（既存スタッフとの連携含む）